

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | ワインときのこの里創り |
| 事業主体 (連絡先) | 特定非営利活動法人信州ふるさとづくり応援団 理事長石井吉正 (0267-88-4488) |
| 事業区分 | (6) イ農業の振興と農山村づくり |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,676,337 円 (うち支援金 1,237,000 円) |

事業内容

佐久地域に合ったワイン用葡萄栽培を呼び掛け、多くの仲間と栽培研修を行い適合種の選定とワイン用葡萄栽培の普及に務め荒廃農地の再活用と若者・女性・移住者等の就業の場の確保を目的とする活動。

又、山間部日陰地域の活用として茸の露地栽培を大規模に行い観光農園化を図り観光客の誘致と新たな茸加工産品を開発し就業の場の確保と地域振興を図る事業。



【目標・ねらい】

- ① 試験栽培をしつつ多くの仲間を作り地場産業化を図りたい。
- ② 就業の場の確保と新規産業の創設

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 多くの町民の関心を得たので葡萄の試験栽培に成功すれば地場産業化も可能です。現在佐久穂町内外合わせて4人の方が栽培を要望されており来年度から着手したいと言っておられます。
- ② 茸狩り園も放射能問題の決着を見たら本格的に展開をして実績をつけたい。
- ③ 実際に、葡萄栽培に着手した事により研修者ともども多くの試練とトラブルを身をもって経験でき実際の栽培になっても慌てることなく実施できる体制が整った。

※自己評価【 A 】

【理由】

思いのほか、熱心な研修者と地元住民の参加意欲があり葡萄栽培が成功すれば事業化が期待できる。延長線上に国土交通省のプロジェクトを組み込むことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新たな、局面として葡萄栽培と同等な企画として山椒の栽培と蔓ニンジンなどの薬用にもなる山菜や茸を取り込み『免疫力を高める食品』のコンセプトの中での栽培を多く増やし纏まりのある商品群を構成し地域住民を巻き込んでの事業展開が最終目的と考えている。

幸いにして、全国で2ヵ所の展開をしていく国土交通省の「人口減少下における長期的な国土管理方策の調査」に選定されたのでこれから2年かけて更に進化させてゆきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある